令和8年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【大谷場中学校】

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する資質・能力	(1) 初めて出会う問題や課題に対して、自ら問いを立て、主体的に取り組みながら、多面的に情報を収集・分析し、解決策を考えることができる資質・能力 (2) 主体的・対話的な学びを通して、自分の考えや学びの変化を言語化し、他者との対話を通して考えを更新・調整することができる資質・能力
⇓	
実施する学力向上策【時期・頻度】	(1) 生徒が「解決したい」「なぜだろう」と感じる未知性や必要感のある課題を設定するとともに、自分で情報を選択・比較・分析する活動を重視する。また、調査結果をもとに、自分なりの解決策や提案をまとめる活動を取り入れた授業を実施する。【各単元の中で1回以上】 (2)自分の考えや根拠を説明する言語活動を位置付けるとともに、ペア・グループ活動を通して多様な考えに触れる機会を確保する。また、他者の意見と自分の考えを比較・検討し、根拠をもとに説明・質問・再考する活動や、「学びの変容」を言語化する振り返りを取り入れた授業を実施する。【各教科の単元の特性に応じて、計画的に実施】

⑤	年度末評価	
学力向上策の実施状況	評価(※)	
⇓		
今年度の成果と次年度の課題		

※評価　A 8割以上(達成)　B 6割以上(おおむね達成)　C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	・全体として高い学力の定着が見られる。 ・記述問題を含め無解答率が非常に低く、最後まで諦めずに解答しようとする姿勢が顕著である。 ・辞書を活用し、文脈に合わせた適切な表現を抜き出す問題において、課題が見られる。【国語】 ・記述式問題全般において、選択式・短答式に比べ正答率が下がる傾向にある。特に、データの傾向を読み取って判断の理由を説明する設問に課題が残る。【数学】
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	・基礎的・基本的な知識および技能がしっかりと定着している。 ・困難な課題に対しても、意欲的かつ粘り強く向き合う学習習慣が身についている。 ・文章の文脈に即して語句の意味を正しく捉え直す「言葉の活用力」に伸びしろがある。 ・複数のデータ(図表やグラフ)を比較・分析し、根拠を明らかにして自分の言葉で説明するなど、情報を統合して発信する発展的な思考力・表現力の更なる育成が必要である。

④	さいたま市学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	

③	中間評価	
学力向上策の実施状況	評価(※)	校内研修や教員どうしの授業公開・参観を通じ、(1)(2)の学力向上策を計画的に推進している。現在、各教科や総合的な学習の時間を中心に実践を重ねている段階である。引き続き、研修等の機会を通じて全職員による組織的な取組を継続していく。
⇓		
学力向上策の見直し	・タブレット等のツールを活用し、文脈に応じた適切な語句の再確認や表現の推敲を行う活動を設定する。また、複数のデータ(図表・グラフ)を比較・分析し、判断の理由を記述する場面を意図的に取り入れる。【各教科の単元の特性に応じて、計画的に実施】 ・生徒の粘り強さを活かし、記述問題の解答や根拠をペア・グループで比較・検討させる言語活動を強化する。「なぜその根拠を選んだか」を互いに説明・質問・修正し合うことで、論理的な説明力と記述表現力を高める指導を実施する。【各教科の単元の特性に応じて、計画的に実施】	

※評価　A 8割以上(達成)　B 6割以上(おおむね達成)　C 6割未満(あと一歩)